

# 目 次

## 第Ⅰ章 周術期漢方って何？

1. 東洋医学における漢方の位置づけ 2
2. 漢方の普及状況 2
3. 漢方にはエビデンスはあるの？ 2
4. 漢方ってどうやって治療するの？ 3
5. 周術期漢方の着想 5
6. 周術期漢方、日本の麻酔科医がやらねば誰がやる！ 5
7. 実は似ている麻酔科学と漢方の考え方 6
8. 現代医療における漢方のあり方 7

## 第Ⅱ章 病態に応じた漢方処方の考え方 ～ 35 病態 / 処方～

<b>A</b>	漢方の基本病態に対応する生薬と基本方剤	12
<b>B</b>	周術期に漢方を効果的に使うためのポイント	15
<b>C</b>	周術期に遭遇する病態に対する漢方治療	18
<b>1</b>	術後イレウス	20
<b>2</b>	術後浮腫	24
<b>3</b>	炎症性浮腫	28
<b>4</b>	冷えや血行障害を伴う浮腫	32
<b>5</b>	黄疸	36
<b>6</b>	術後悪心・嘔吐 (PONV)	40

7	術後せん妄	44
8	硬膜穿刺後頭痛（PDPH）	48
9	痙攣性の疼痛（疝痛）	52
10	術後痛	56
11	術後咽頭痛	60
12	手術体位に起因する凝り（項背部～肩）	64
13	後陣痛	68
14	出血	72
15	血腫	74
16	食欲低下（気虚型の胃腸障害）	78
17	胃逆流症状・通過障害（気滞型の胃腸障害）	82
18	呑気症・腹部膨満感	86
19	小腸性下痢	90
20	便秘	94
21	術前不安	98
22	抑うつ	102
23	自律神経失調症	106
24	術後回復の遅延	110
25	創傷治癒の遅延	114
26	呼吸器感染症の予防①：病原微生物による感染	118
27	呼吸器感染症の予防②：誤嚥性肺炎	122
28	呼吸器感染症の治療①：新型コロナウイルス感染症	126
29	呼吸器感染症の治療②：インフルエンザ	130

30	日和見感染症	134
31	フレイル	138
32	がん患者の補助療法①：衰弱	142
33	がん患者の補助療法②：がん性疼痛	146
34	化学療法の副作用①：口内炎	150
35	化学療法の副作用②：末梢神経障害	154
< 付記 >	全身麻酔	158

### 第III章 周術期漢方 ～これまで、そしてこれから～

#### 現状と展望

1. 周術期漢方の現状 162
2. 周術期漢方を導入するためには 162
3. 筆者の施設での周術期漢方の軌跡 162
4. コメディカルとの協働 163
5. 漢方医学の発展に寄与しうる周術期漢方 165
6. 周術期漢方の展望 165

#### 課題

1. 漢方のエビデンスの構築 167
2. 漢方の適正使用と副作用 171
3. 教育と啓蒙 175

## 第IV章 漢方を活用したいドクターへ ～学びと実践への手引き～

1. 西洋医学を実践している医師の漢方の学び方 182
2. 漢方外来の陪席のススメ  
～三年勤め学ばんよりは三年師を選ぶべし～ 184
3. 神農に倣う～自分自身で漢方の効果を実感する～ 185

索引	187
あとがき	197
おすすめの書籍・データベース	201
著者プロフィール	205

## 🍃 好きになる！漢方豆知識 🍃

- ① 紫雲膏をつくってみた！ 10
- ② 大あれば小も中もあり 23
- ③ 二日酔いに五苓散 27
- ④ 漢方薬の名前 35
- ⑤ 術後悪心・嘔吐（PONV）に対する鍼灸の効果 38
- ⑥ 経絡・経筋とアナトミートレイン 43
- ⑦ 漢方薬の味 51
- ⑧ 術後痛への鍼灸の効果 59
- ⑨ 漢方を処方するその前に（架空のお話） 67
- ⑩ 医食同源・薬食同源 81
- ⑪ 2種類の朮 93
- ⑫ 母子同服 101
- ⑬ 香りの効能 105
- ⑭ 煎じ薬をつくったあとの生薬の活用 113
- ⑮ 未病を治す 121
- ⑯ 実は危険な「葛根湯医者」 129
- ⑰ 麻黄から抽出されたエフェドリン 133
- ⑱ オセルタミビルと八角 137
- ⑲ モルヒネとケシ 149
- ⑳ 薬用植物に親しもう 153
- ㉑ 漢方には新薬はあるの？ 157